

文芸

俳句

足元に老いのちかづく春の暮
池田 逸子
下校子の声の明るき暮の春
伊藤 敬子
被災地の蘇ゆる生命人も木も
今関満喜子
ホーホケキヨ復興祈る初音かな
魚地 照子
満天の星冴え返り余震なほ
江森 悦子
いざ咲かん並木の桜気含満つ
大谷 武彦
津波浜テレビが写す春の雪
川島 孝夫
麗かや何であつたつけれもの
川島 通則
ゴルフ打つ人の姿や鴨の群
向後 寛
花日和泣く児も来せて園児バス
越川 せつ子
花びらが花びら追いて川暮るる
越川 義則
しばらくの思いを筆に託す春
小松 藤男
手の温み添へて狭庭の花種時く
佐瀬 輝夫

短歌

兵の墓桜と散りて二十代
鈴木とし子
被災地に追いつけらける春の雪
鈴木 利子
入学子母の手はなれふり返る
玉虫 栗扇
入学の子の背に踊るランドセル
土屋美枝子
初ざくら返るものなまき室へ
土屋 義昭
切株の中よりつんと蘇ゆる
戸村 静草
被災者の笑顔が救ひ春來たる
早川 勇
激震に津波原発はれぬ闇
越川 福子
ざゅつと握りて食ひ入るテレビ
雲間飛ぶ飛行機影に見れては
我が飛びし頃ふと思ひ出す
鈴木 益郎
ひとひらの雲流れゆく午後の空
桜の蕾ふくらむ日和
土屋 好
突発の地震津波に瞬く間
東北関東地獄と化せり
伊藤 定男
残り火を燃やし定年なき二人
つかず離れず自由に生きる
高梨 キヨ

記入台に向かい背を見ず幾人の
コート濡れをり雨の強きか
西山満里子
身のこなしままにならねど今日もゆき
ゲートボールに吾は挑戦
吉岡 信子
節電に休業をするパチンコ店
反する店に誘集まる
青木 秀子
若人の店と思ひしコンビニも
通ひ慣れゆく店舗となれり
鈴木まさ子
病みてより声も出さぬ飼犬が
目だけで吾の動きを追ひぬ
八角 三枝
酔の物の若布は三陸大谷産
海蘇るを願ひ食みをり
押尾 輝子
空のはてに去つたご娘とは語り合ひ
現世の吾と守りくれしか
田崎 尚美
アメリカに旅をした友夕ぐれに
無事についたと便り届きぬ
平山 芳子
いつしかに連翹の茶ふらみて
吹き過ぐ風のやさしくなりぬ
芹川 初子
まだ寒く春は遠しと思へども
心踊らすうぐいすの声
島田ますみ
花と挿す卓のコップに射す夕日
小さき気泡の虹を生みぬつ
斉藤つね子

こうほう博物館 38

川の二枚貝

桜の花が終り、季節が初夏へと移り変わってくると、水も温み、海岸では潮干狩りのシーズンが盛りとなります。九十九里の海岸では、かつてナガラミやハマグリなどが盛んに採れ、食卓をにぎわせていましたが、近年ではその採れる量が減少し、今ではお土産でも他地域産が増えたようです。この海で採れる貝とは別に、田圃のわきを流れる小川や水路にも、貝がいることをご存知でしょうか。ここに紹介する貝は、町内の小川や水路の淡水に生息する二枚貝です。

写真中、最も大きいのが二段目の三点はドブガイと呼ばれる貝で、名前に似合わずきれいな水が流れる川に住んでいます。一番手前の右側はイシガイと呼ばれるドブガイの仲間ですが、殻が厚く硬くなっています。左側の一番小さいのはマシジミという淡水のシジミです。

これらの貝は、水がきれい清流のある川に生息しています。そのため少しでも川の水が汚れたり、流れに滞りが起きたりすると、たちまち生息できなくなり、死んでしまいます。今は埋め立てられて暗渠になってしまいましたが、横芝の一号線用水路はその条件にあったのか、これらの貝が多く生息していました。今では大島団地近くや長倉の水路に、わずかにいるぐらいとなりました。

これらの二枚貝は淡水小魚のタナゴにとっても、繁殖に重要な役割を果たしています。巻貝のカワニナは蜆の餌としても必要です。ほかの動物にとっても大事なこれらの淡水の貝、環境のパロメーターにもなっているこれらの貝を大事に保護していきたいものです。



▶町内で採取された淡水の貝